



# UP-LE

# Vol.34

1999年3月15日

学校法人コア学園  
 飯田コンピュータ専門学校  
 〒395-0823 長野県飯田市松尾明7591  
 ☎0265-22-5111・FAX.0265-22-5100  
 URL●http://www.iidanet.or.jp/ica  
 E-mail●ica@iidanet.or.jp

## 飛 翔



二十一世紀へのカウントダウンが始まった一九九九年。世界中の誰もが未だ経験しない次の百年。その未知なる世紀の扉が開かれる日も間近。そしてその扉を開くのは、今日、ここに社会へ羽ばたく君たち。  
 新時代を担うに足る逞しい若者達だ。

### 南向きの大きな窓

## 出 逢 い

学校長 榎原 英勝

階段を上がって二階のフロアーに立つと、正面は「サロン」と称する憩いの場である。昼のお弁当もここで取る事ができるし、休憩時間にはジュースやコーヒーを飲みながら談笑する場所となる。また、大分隅に追いやられた格好で気の毒だが、喫煙コーナーもあって、リカレントカレッジに通う方々などが利用できるようになっていた。

このサロンの入り口のガラスドアには内側から二枚の張り紙があるが、そこには次の言葉が書かれている。

「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を暖める。」というのと、「本気ですれば大抵のことができる。本気ですれば何でもおもしろい。本気でしていると誰かが助けてくれる。」という言葉である。

これらは私の知る限りずっとこの場所だから、ここに張り出されてかれこれ六、七年以上になろう。サロンに出入りする人や廊下を往來する人達の目に触れてきたものである。

「当たり前」前のが、当たり前前に出来る人間に「をモットーに、この学校の基礎づくりにご尽力なされた林校長先生が選んで掲げられたと聞いている。平易で飾らないごく普通の言葉だが、生き方について大事なことを教えていると思う。日に幾度も目にする場所で慣れっこになってしまっているだろう学生達に、

時々立ち止まってじっくり心に噛みしめて貰いたいものと希望している。

ところでこの言葉、ずっと気になっていたので、その出自がはっきりしないことになった。主として教育関係の方々に機会ある毎に伺ったのだが、よく目にし耳にする言葉としながらも、誰が作った詩であるのか明らかでなかった。

そんな次第でここ何年も心に引っかかっていたところ、つい半年ほど前、何気なく聞いていたラジオの番組で「後藤静香」という詩人の存在を知った。今から三十年も前に没した人物だが、社会教育や人生の啓蒙に心血を注いだ哲人である。以来、この人の作品をいくつか手にする機会があった。

人生の中には幾つもの意義ある出逢いがある。きっとこのキャンパスでも素晴らしい仲間づくりがされているだろう。そしてまた、こうした優れた詩や書物に巡り会うこともまた貴重な体験で、その出逢いこそを大切にしたいものと思う。

因みに、この「本気」と題する詩の全文は次の通りであった。

本気  
 本気ですれば大いなる事はできる。  
 本気ですればなんでも面白い。  
 本気でしていると誰かが助けてくれる。  
 人間を幸福にするために  
 本気で働いている人間は  
 みんな幸福で  
 みんなえらい。

## 新入生を迎えて

四月、新入生を迎えて、第二期となる一九九八年度がスタートした。在校生の減少で、キャンパスから漏れる歓声も少なく少々淋しいスタートとなったが、个性的で活発な学生も多く和気あいあいの中で授業が進められた。

また実習を中心としたカリキュラムで、早速インターネットへ



のアクセスやホームページの研究、Windowsアプリケーション



の演習など、実践的な学習への取り組みが始まった。

## ソフトピア

### 一日研修

新入生と在学生との交流会を兼ねた一日研修が、新年度開始早々の五月一日、教職員も多数参加し大型バスをチャーターして実施された。

当日の目的地は、岐阜県大垣市の「ソフトピアジャパン」と同じく岐阜県大山市「リトルワールド」。

ソフトピアジャパンはコンピュータ関連の研究・開発、教育・研修等複合施設でわが国の類似施設の中でも最も大きく充実した施設



の一つ。最先端の技術やシステム、関連設備・機器に触れながら、学校やこの地方では経験できない研修をすることができた。また、リトルワールドもアミューズメント施設ではわが国を代表するもので、一年を通じて大変賑やかな場所である。ここでは、硬い研修の雰囲気もほぐれて、広い敷地内でそれぞれ好みのコーナーで異国文化に触れ、イベントに参加したり買い物を楽しんだり

だと、学生同士の交流・交歓をしながら半日を楽しんだ。



## = PCDayプロジェクト =

サマーカレッジ -98.8/2・3・4-

飯田・下伊那地方の小・中・高校の全てをインターネットに接続して、教育活動に利用できる環境整備を支援しようとするボランティア活動が「NetDay」

したのが、一昨年の六月。

アメリカはシリコンバレーの先進事業に参加し体験した関係者や、この地域にそれを根付けようとする熱心な推進者を中心に立ち上がったプロジェクトで、当校もメンバーとして企画し事務局を当校内に置く。飯伊地域メディア振興協会がこれを支えて推進されて来たが、昨年四月には、これが新たに「PCDayプロジェクト」に発展し、メディア協会に正式に「教育部会」も設置され、ネットワークを利用した教育コンテンツの開発、研究という新しいテーマへの取り組みが進められた。

昨年夏休みに当校を会場に行われた「サマーカレッジ」では、パソコンの組立実習やコンテンツ開発テーマの募集、更に、全国から多くの関係者を集めて「教育の情報化」シンポジウムが開催された。

以降、半年間をかけてそれぞれ開発が進められた教育コンテンツの発表会（PCDay成果発表会）が去る二月十三日（土）、これも当校を会場に、遠くは東京や長野市等から教育関係者を中心に約四十名の参加により行われた。

当校の伊藤康彦講師（教務主任）も、「台湾版コンテンツの日本語吹き替え」のテーマで研究成果を発表。その他に今年度の開発テーマは、鼎中学校宮崎良夫教諭の「パソコン芝居・佐野常民の生涯の制作」と竜丘小学校の野上俊二教諭の



## 成果発表会 -99.2/13-

「JAVAAアプレット」と学習用プリントの制作」で、合計三テーマであったが、この事業は来年度も継続されるので、順次コンテンツも豊富となり、それがネットワークの中で多くの教育機関や関係者に有効活用される環境が出来上がって行くことが期待されている。



# マルチメディアフェア—IDA

## —インターネットコーナーに協賛

「ニューフロンティア21・地域に吹き込む『メディア革新』の風」をテーマに、この地方では初めてとなる大規模なマルチメディア関連のフェアが、平成十年七月二十四・五日、飯田市上郷の飯伊地場産業振興センター（産業センターIDA）を会場に開催された。

この催しは、飯田商工会議所が主催し、飯田市や飯伊広域行政組合、飯伊地域メディア振興協会、飯田職業安定協会などの行政や団体と、信濃毎日新聞社、NTT、中部電力など有力企業が共催として、計画、準備されて来たものだが、当校もその共催団体の一つとして、計画の当初から関わって共に推進してきた事業である。

二日間に亘るフェアは、「21世紀の情報社会へ地域からの取り組み—コミュニティ・エリア・ネットワークの推進—」と題する。公文俊平先生（国際大学）の基調講演を皮切りに、「地域振興とマルチメディアを考える」パネルドィスカッションや、三遠南信テレビ会議、先端事業者による「マルチメディア

アセミナー」等の多彩な催しと、各種マルチメディア、先端機器やシステムの展示、実演、体験など盛りだくさんのコーナーも準備され、多くの来場者の関心を集めていた。

当校はこれの中で、「インターネット体験コーナー」を担当し、学校講師や研究員と、マルチメディアコースで学ぶ学生たちがインストラクターを担当し、来場者への説



### 「特別講義」を聴講して

1年 原 葉子

情報技術が発達して、便利で効率的な社会になることを、私は賛成します。

そしてその技術は、お年寄りや身体が弱い方々の生活条件に対しても同じように進歩して欲しいです。しかし私は、今のままの発展の具合に、強い不満を持っているわけではありません。自分で都合が悪いかなと感じ

る事の中には、人と人が直接接してしか分かり合えない心のふれあいがあると思うからです。

コンピュータを使って、自宅で簡単に買い物ができる、誰にも会わずに銀行でのお金の出し入れが出来たりと、あこがれてしまう事ばかりですが、たとえ相手が自分と関わりのない人物だとしても、心のつながりがない社会になったらどうなるのか、それを考えるととても不安です。

機械的な処理の中にも、人間の味のある技術が進歩するように願っています。

「高度情報通信ネットワーク時代に向けて」

名古屋工業大学教授  
石井直広先生



## 備えあれば憂い無し

### 大々的な訓練を — 9/1防災の日 —

今年度の「防災訓練」は、飯田消防署の指定を受け、同署の訓練事業である「平成十年度地震防災訓練所実働訓練」と合同で、近年にない大規模な訓練として実施された。

火災・炎上、被災者発生の想

### 防災訓練体験記

2年 A生

九月一日に防災訓練があり、参加しました。

避難訓練だけでなく、消防署によるの消火活動や怪我人の救助の様子も見学しました。

また、消火器を使った消火訓練も行われましたが、私は実際に消火器を使ったことがなく、使い方もあまりよく知りませんでしたので、見学だけでしたが、改めて確認でき、大変いい体験をしたと思います。

特に、いざという時に慌てないで使いこなせるようにしておく必



定のもと、通報で飯田消防署から消防自動車駆けつけ消火。続いて救急車到着、救出、応急手当、搬送と本番さながらの訓練が行われ、教職員・学生、研究所職員等全員参加で行われた。

要のあることを痛感しました。それから、避難場所や避難経路なども普段から知っておく必要があるなと思いました。この訓練をしてみても、日頃から、災害に備えて準備しておくことの大切さを実感しました。



# その1 マレー、ホームステイの旅

飯田市の公民館を拠点に集う「青年塾」(成人式実行委員会)の一人として活躍して来た二年生の中島美貴子さんは、昨年(2009)の十月、青年塾事業として行われた「マレーシアホームステイ研修」に参加。十八人のメンバーと共に、異国の文化に触れ、国境と言葉の壁を越えた人と人との交流を体験。青春の一ページを大きく飾る素晴らしい、貴重な旅を経験されました。

そのホームステイの旅のほんの「コマ」をレポートして貰いました。

## マレーダンスで 夜は更けて

何しろマレーの人は踊り好きで、またその踊りが綺麗。ただただ見とれ、素敵な雰囲気を感じてしまっていました。

初日に予定されていたディナーパーティが一日遅れとなって一層待ち遠しかったパーティはみんなであそびながらパーティ形式。どれもこれも辛そうな料理ばかりでしたが、その頃には大分慣れてきてとても美味しくいただいていた。敢えて表現すれば「辛い!でも旨い!」料理。多分、大勢でいただく雰囲気も大分料理の味を引き立ててくれたのだと思う。

パーティが進行すると、いよいよキラキラ光る衣装(スパンコール?)を身にまとい、な



めらかにかつリズムカルに手を動かす独特な踊りが始まった。指の先まで神経を行き届かせ、緊張した空気の中にも何故かしつとりと落ち着きを感じる、雰囲気のある踊りだ。静かな時間がゆったりと流れて行く。自然に何の抵抗もなく引き込まれてしまう不思議な踊りだ。その踊りの中に、何時しか何の抵抗もな



く身を任せているの  
でした。  
(二年 中島美貴子)



# 海外に学ぶ

## 出逢い、笑い、そして感動の十一日間

信州青年が洋上の共同生活と研修を通じて創造性を培い、相互理解と連帯を深め、また外国青年との交流で国際的な協調精神を育くもつとする、伝統の「信州青年洋上セミナー」(長野県主催)に、一年生の片山義和君と宮沢州平君の二人が、七月十日から十一日間参加されました。

三〇人以上の人が参加しての十一日間の洋上セミナー。年齢も仕事も全然違うし、勿論生活も価値観も全く異なる、本当に偶然出逢った人達で、どんな旅になるのか不安ばかりだったけど、参加して良かったと心から感じる旅だった。

中国では、石家荘市や北京や天津を訪問した。天津では小さな子どもたちから音楽や踊りの歓迎を受けた。天津駅から石家荘駅までは五時間と非常に長く疲れもしたが、一方で、バスが駅の中まで入り込んでいる石家荘駅など、町全体



のスケールの大きさ等々、ただ驚くことばかりだった。博物館、友好果樹園、紡績工場等の見学や青年交歓会への参加。さまざまなプログラムが用意される中で、限られて日程ではあったが、現地の多くの方々と交流できたことは、非常に素晴らしい体験だったと思う。

中国の人と漢字で会話できたことが大変嬉しかったし、万里の長城からの景色は最高だった。生涯に残る大きな体験の一つとなった。

## その2

～第25船～

### 信州青年洋上セミナー 下伊那地区報告書

—1998—



みんなて しもい～なへ おいてなんしょ

(二年 片山 義和)



# 卒業生に贈る言葉

## 順不同・敬称略

・本日はご卒業おめでとうございます。三月議会で欠席させていただきました。この学園で先生方、又学生仲間と刻んだたくい人の思い出を胸を張って、新しい人生をスタートさせましょう。

・ご卒業おめでとうございます。高度情報化社会を迎え、二十一世紀を担うエキスパートとして活躍されませう。ご期待申し上げます。(下伊那地方事務所長 青木和男)

・御卒業おめでとうございます。情報化ソフト社会の旗手として、新しい産業社会の担い手の期待に添えてください。(下伊那地方事務所商工課長 田中邦義)

・ご卒業おめでとうございます。二年間の短い学園生活で得た技術と友達との絆を大切に、今後の人生に活かして頑張ってください。(飯田勤労青少年ホーム館長 高田 正)

・職場環境は急に変わりつつあります。最先端の知識技術を身に着けた皆様のご活躍をお祈り申し上げます。(飯田警察署長)

・ご卒業おめでとうございます。情報活用能力はこれからの生活にとって必須能力となっております。学ばれた高度な技術・技能を是非地域へ還元してください。ご期待申し上げます。(飯田教育事務所長 棚田 齊)

・ご卒業おめでとうございます。新しい世界に大きく翼を広げてください。お祈りいたします。(長野県議会議員 吉田博美)

・常にゆめを持ちつ、今を精一杯生きよう。ご健闘を祈ります。(長野県議会議員 森田恒雄)

・社業おめでとう。ご卒業おめでとうございます。学校で修得された学識、技術を地域社会で存分に発揮し、ご活躍を祈ります。(株式会社マツザワ 吉川秀一)

・一期一会をそして初心を忘れるな。(多摩大学教授 那野比古)

・学んだことが活用できるような頑張ってください。(信州大学工学部長 柳沢武三郎)

・ご卒業おめでとうございます。皆さんはコンピュータ技術の基礎を勉強しましたから、どんな問題にあっても大丈夫です。元氣を出して頑張りましょう。(名古屋工業大学工学部教授 石井直宏)

・ご卒業おめでとうございます。「一日生きていることは、一歩進むことである。」「(湯川秀樹) これから始まる長い人生、体には気をつけて、ゆっくり着実に歩んでいく、前に向かって進んでください。(信州大学工学部教授 土屋良明)

・明日を夢見て、いつも生き生き働き、仕事に時々集中し、一人一人になくなって欲しい。(信州大学工学部教授 松本光功)

・ご卒業おめでとうございます。暗雲立ちこめる二十一世紀に向かって清新の風を吹き送り、希望の灯をともしてください。くれぐれも心身の健康保持に留意してください。(小池茂彦)

・ご卒業おめでとうございます。次代を担う若人の自覚と誇りをもち、がんばってください。(牧野内功)

・ご卒業おめでとうございます。自分を甘やかさず、自分の可能性を信じて頑張ってください。(篠田 恵)

・ご卒業おめでとうございます。存在することの危うさに最後の最後まで懸けるのだ(今村由香)

・得意が三つ、興味が七つあれば、道は必ず拓ける。「べつに族」いちおう族一からの脱皮は早い者が勝ち。活躍を祈る。(唐沢 秀)

・ご卒業おめでとうございます。厳しい社会状況ではありますが、皆様の天職を求めて社会に大きくはばたいてください。(長野県専修学校各種学校連合会長 黒木亮介)

・卒業おめでとうございます。来るべき二十一世紀を明るい希望に満ちた世紀とするため、一人一人が使命感を持って活躍されるよう期待致します。(飯田高等学校長 塚田紀昭)

・ご卒業おめでとうございます。いよいよ社会人ですね。新しい社会での活躍を期待します。(飯田風越高等学校長 木下俊佐)

・目標に向かって大きく羽搏いて下さい。(飯田工業高等学校長)

・ご卒業おめでとうございます。健康に留意され、ご活躍されることを期待します。ご多幸を祈ります。(飯田女子高等学校長 壬生照道)

・情報集めて、分析すると武器になる。(駒ヶ根工業高等学校長 木内一男)

・ご卒業おめでとうございます。社会人として益々のご活躍を祈念致します。(上伊那農業高等学校長 伊澤宏爾)

・ご卒業おめでとうございます。学んだ力を十分に生かし、ご活躍されますよう祈念いたします。(高遠高等学校長 長田 孝)

・卒業は一人立ちへの第一歩です。現実に生活し、事実に基づいて、はじめて今迄に学んだ事が実証されるのです。勇気を持って対応して下さい。(飯田信用金庫理事長 伊藤 篤)

・失敗を恐れず何事もプラス指向で取り組もう。(飯田コンピュータ専門学校同窓会長 小澤賢一)

・マルチメディア時代と言われて久しくなります。もうすぐ二十一世紀になれば身近な情報化の波がほんとうに簡単に手にはいるようになるでしょう。飯田コンピュータ専門学校で培った知識と経験を生かして地域の発展に貢献されることを祈ります。頑張ってください。(テレビ信州飯田支局長 佐藤 信)

・実社会で充分経験を活かして下さい。(オフトーク通信センター長)

・ご卒業おめでとうございます。健康に留意され、ご活躍されることを期待します。ご多幸を祈ります。(飯田女子高等学校長 壬生照道)

・ご卒業おめでとうございます。社会人として益々のご活躍を祈念致します。(上伊那農業高等学校長 伊澤宏爾)

・ご卒業おめでとうございます。学んだ力を十分に生かし、ご活躍されますよう祈念いたします。(高遠高等学校長 長田 孝)

・卒業は一人立ちへの第一歩です。現実に生活し、事実に基づいて、はじめて今迄に学んだ事が実証されるのです。勇気を持って対応して下さい。(飯田信用金庫理事長 伊藤 篤)

・失敗を恐れず何事もプラス指向で取り組もう。(飯田コンピュータ専門学校同窓会長 小澤賢一)

・マルチメディア時代と言われて久しくなります。もうすぐ二十一世紀になれば身近な情報化の波がほんとうに簡単に手にはいるようになるでしょう。飯田コンピュータ専門学校で培った知識と経験を生かして地域の発展に貢献されることを祈ります。頑張ってください。(テレビ信州飯田支局長 佐藤 信)

・実社会で充分経験を活かして下さい。(オフトーク通信センター長)

・ご卒業おめでとうございます。健康に留意され、ご活躍されることを期待します。ご多幸を祈ります。(飯田女子高等学校長 壬生照道)

## 伝言板

3月15日(月)	卒業式	5月	日商ワープロ検定
23日(火)	成績発表	6月26日(日)	CG検定
24日(水)	～春休み		マルチメディア検定
27日(木)	一般入試		秘書技能検定
4月8日(土)	入学式		日商簿記検定
9日(金)	オリエンテーション		情報処理活用能力検定
12日(月)	始業式		
18日(日)	情報処理技術者試験		
30日(金)	新入生歓迎会・一日研修		

## 編集後記

「早いものですね」は、最も一般的な日常会話だが、とりわけこの時期のこの言葉には実感が伴う。正に「ご多忙のところ」であるが、卒業、入学、就職や転勤等々人生の大きな節目で、社会活動の大半がここを起点としているのだから当然である。

こんな時期なのに、何故、二月を二十八日(閏年は二十九日)と決めたのだろうか？

仮に、三十二、三十三日あったところでいい仕事ができるとは限らないのだが...

慌ただしく編集した「UP-LE」ですが、ご一読いただければ幸いです。

り上げてしまったこの社会を貴方々若者は、二十一世紀に向けて、いかに住み良い社会に変えていけるか大変な役目があります。これから、社会に出てこの二年間の学校の経験を生かしながら頑張ってください。現実から目を背けず強い精神力を、いかに大事にすることも大切なことになってきます。

二年間、先生方大変御世話になりました。(田中光晴(一樹))

・いよいよ社会人自分の行動には責任をもって、上を向いて歩んでほしい。卒業おめでとう。一九九九・三父・母(田中恵久(久美子))

・若い時に、自分のやりたい事にトライしてみよう。(中島美恵子(美貴子))

・今も、これからもコンピュータの時代です。みなさんが勉強した二年間は一生の財産だと思います。卒業おめでとうございます。(長谷部敬子(直美))

・ご卒業おめでとうございます。学校で学んだ知識をこれから社会に出ておおいに生かして欲しいと思います。諸先生方には二年間ご指導頂き誠にありがとうございました。(増沢しづ子(健一))